コスモスだより

本願寺ウィスタリアガーデン機関紙第40号

〒616-8074　京都市右京区太秦安井二条裏町15
TEL（075）811-2447

「コロナ禍からの脱出をめざして」

本願寺ウィスタリアガーデン
施設長　桐林三巳

かなり前の映画でダスティン・ホフマンが全身宇宙服のような服装で演じた、「アウトブレイク」という映画を観た記憶があります。その時に初めてパンデミックという言葉を知りました。今では誰もが知っている言葉になってしまいました。不幸にもコロナウイルスの感染が現実のこととして世界に拡散し、多くの犠牲者がでています。

およそ百年前、スペイン風邪の大流行で、五億人が罹患し、五千万人が亡くなったと言われています。当時の世界人口が十八億人でしたから世界人口の1/3が感染したことになります。ワクチンもなく、しかも第一次世界大戦中のためスペイン風邪自体が機密扱いにされたまま悲惨な戦争は続き、多くの犠牲者を出してしまいました。戦死者、八五〇万人の約六倍になります。

現在の世界人口は、当時の四倍、約七十億人と推測されています。ウイルス禍の収束には、集団免疫・抗体が必要です。現在進行中のワクチン接種は集団免疫を人工的に作り出す方法です。世界人口の七割がワクチンを接種しなければ集団免疫の効果は出てこないようです。およそ五十億人の接種が必要になります。スペイン風邪の収束には四年程度の歳月を要しました。

コロナを早く収束させるためには、まさに人工的な集団免疫状況を作り出さなければなません。自分だけ、自国だけのワクチン接種では何時までたってもコロナ禍から抜け出すことはできないのです。世界には豊かな国がある一方で、一日一ドルで生活しなければならない国もあり、ワクチンを手に入れることがままならない国もあります。しかし、その人たちをそのままにしておくならば、コロナウイルスは、いつまで経ってもこの地球上から収束させることはできないのです。収束には、世界の人々の相互理解と協力と智慧が必要になります。

法蔵菩薩は、四十八願のなかに一人でも取り残される者があるならば仏にならないと誓われ、その願いを叶えて阿弥陀仏となられました。コロナウイルスとの闘いは、仏様の願いに通じるものがあるように思います。また国際連合が推奨している「持続可能な開発目標、SDGs」にも通じるものがあり、「誰一人として取り残さない」という精神に通じます。

コロナウイルスの変異によって感染率が高まっていることを考えると、一刻も早く、収束に向けて手を打って行かなければならないでしょう。

合掌

ホレンダスナイト

マレフィセント

たこやきビンゴ

ヨーヨーつり

うけつけ

真夜中のトーマス列車

体育会ＷＧ

新たなる挑戦

昨年は、新型コロナウィルスの影響で生活は一変し、当たり前にできていたことができなくなってしまいました。

施設においても予定していた『母の日一泊旅行』を中止せざるをえなくなり、楽しみにしていたお母さん方や子ども達にとても残念な思いをさせました。「このままでは、みんな元気を失くしてしまう。どうにかしなければ」という思いから職員全員で色々なアイデアを出し合ってきました。

〈五月〉
●コロナに負けるな
　チャレンジ大作戦
●母の日リフレッシュＤＡＹ
〈八月〉
●ホレンダスナイト
〈十月〉
●体育会Ｗ・Ｇ
〈十二月〉
●報恩講（今までと違う形）
〈一月〉
●新年の集い（今までと違う形）

報恩講

学童作品

みのり保育園と地域保育園児
合同作品

母の会 作品

学童作品

職員による『ＷＧきわめつけの刃』

冨岡義勇

嘴平伊之助

我妻善逸

竈門禰豆子

竈門炭次郎

鎹鴉

胡蝶しのぶ

珠世

錆兎

鱗滝左近次

３密にならず、いかに楽しむことができるかと工夫に工夫を重ねて行いました。お母さん方や子ども達に喜んでもらいたい一心で気合入れ過ぎてしまい、腰をぬかすほど驚かせてしまったこともありましたが…（笑）

この一年を通して、できない状況に対して悲しんだり悔んだりするのではなく、今ある状況下で自分達ができることを探し挑戦していくことが大切なのだということを学ばせてもらいました。

新たな一年がスタートしました。大変な状況は続いています。それでも、みんなで力を合せて前を向いて進んでいくことができるように挑戦し続けていきたいと思います。

ピアノ教室

施設と音楽とよく生きる

個別担当職員

今年はコロナで三密を避けての発表会となった。振り返れば、以前職員をされていた波々伯部先生が始められたピアノ教室にファミリーコンサート。福祉施設でしっかりとした身近に感じる音楽環境を作られたことに尊敬と賛美を送りたいと改めて思う。音楽の良さはこれから後に皆に感じられることで、ピアノを見れば弾きたくなると思う。発表会はご家族のみで時間を縮小しての開催となったが、無事終えられて良かった。それぞれの曲は日をかけて練習したもの。きっと心に残って忘れないと思う。

音楽をはじめとする芸術に触れることは「うまく生きる」ことにはあまり役に立ちません（たぶん）。けれども「よく生きる」ために、ひとのいのちには欠かせないものです（ぜったい）。【京都新聞：天眼】鷲田清一氏より大嶋義実氏の言葉】この言葉を大切に感じて、ピアノ発表会を行っていきたい。

学童室・のんのっこより

『ひとりひとりが主役になれるように』

学童の今のブームはドッヂボールです。いつも宿題が終わって外に出ると「皆でドッヂしよう！」の声が飛び交っています。学童は1年生～6年生が来ていますので、普通のドッヂボールをすると、1年生がターゲットになり、涙して職員の所に来ることも多々あります。

そんな中でも高学年の女の子が、1年生やボールがあまり投げられていない子にボールを渡してあげている姿には心がほっこりします。

ドッヂボールも色々ルールを変えてやっています。御馴染みの王様ドッヂや、男子VS女子をするときには女子のコートを大きくしたり、火の玉ドッヂボール（指定した子以外触れられないボールを用意）をしたりしています。

やり方を変えることによって1年生や女子が主役になることもありますし、ドッヂボールが得意な男子が防戦一方になることもあります。

またドッヂボールが苦手な子も参加するようになってきて、自信がついてきた証、また周りの支えのおかげだと思っています。

年齢に幅がある学童なので、今後も誰でも楽しめるように工夫しながらやっていきたいと思います。

みのり保育園より

保育室から響く子どもたちや保育士の大きな声。一歳児さん3名の子どもたちはとっても個性豊かで中にはイヤイヤ期真っ最中の子も…。皆で、あーでもない、こーでもないと言い合いながら、笑ったり、時には泣いたり、大騒ぎしながらの毎日です。今年はコロナウィルスの影響で例年行っていた遠足や夏まつり、報恩講での舞台発表などの行事がなくなりました。毎年当たり前のように行っていたことが当たり前ではなくなってしまいました。そんな中でも季節の行事は大切にしたいと、出来る事を出来る範囲で行っています。そして待ちに待った（保育士が!?）節分。子どもたちも鬼さんに変身して準備は万端。まずは講堂で作り物の鬼に、「それっ！それっ！」と言いながら元気よく豆を投げます。鬼をやっつけて晴れ晴れとした気持ちでお部屋に戻ると、なんと後ろから大きなこん棒を持った赤鬼が!!

「ギャーーーーー」

その後の子どもたちの様子は皆さんのご想像にお任せするとして…。

そんなこんなで楽しく賑やかに過ごしているみのり保育園です。